2026 年 9 月

「三豊市詫間町民俗資料館と文化芸術体験についての調査」
報 告（1）
資料館の利活用について

山田 香織（東洋大学）
佐藤 優香（東京大学・東洋大学）
福田 小春（三豊市生涯学習課）
川 芳江（三豊市詫間町民俗資料館・考古館）

1. はじめに：目的

三豊市詫間町民俗資料館・考古館（以下、両館は「資料館・考古館」、民俗資料館のみの際は「資料館」と称す）は、郷土の考古・歴史・民俗資料の収集保存、展示することを目的とし、1984 年に詫間町立民俗資料館、1990 年に詫間町立考古館が開館し、市町村合併により 2006 年に現在の名称に改称した。

香川の民俗資料を収蔵・展示する施設は香川県内に多くはない。こうした経緯もあり、「資料館」は 1992 年以降、西讃を中心とする県下各地の小学生の校外学習、民俗資料を用いた体験学習の場として活用されてきた。かつては小学 3 年生もしくは 4 年生が校外学習で訪問していた。これが、平成 29（2017）年の小学校学習指導要領の改訂において、第 3 学年の社会科の内容として、「身近な地域や市区町村の様子」について学習すること、そこで「生活の道具」に着目することで、市区町村や人びとの生活の様子を捉えることができるようになること、その変化を考え、表現することが提示されたことを受けて、2018 年以降は、この学習の一環で 3 年生が「資料館」を訪れるようになった（文部科学省 2017: 34-47）。「資料館」では現在、6 種の民俗資料体験プログラムを提供している。

『年報 6』（三豊市教育委員会 2025: 3-4）から、2023 年は計 43 校、1752 名（引率者含む）の利用・訪問があったことがわかる。プログラム担当者によれば、2019 年以降（コロナ禍除く）、体験を目的とした訪問学校数・訪問者数はほぼ一定数であるという。ただし、2018 年 4 月に三豊市に隣接する観音寺市に民具・民俗資料を展示する「ふるさと学芸館」が開館し、同館でもそれら資料を用いた昔の暮らしに関する体験活動プログラムを提供していることから、以前「資料館」を訪れていた小学校のなかに、ふるさと学芸館を利用するようになったと思われる小学校もあるとのことである。

『年報 6』（三豊市教育委員会 2025: 16）には、2023 年の利用者の総計が 1968 名と記されている。この数から同年度校外学習訪問者数（引率者含む）を差し引くと、「資料館・考古館」利用者数は 216 名であることがわかる。月平均にすると 20 名以下の来館者ということである。また、同館職員への聞き取りによれば、例年、この数と大差はないという[1]。

[1] ただし、常設展『戦争と三豊』リニューアルならびに特別展「嗚呼！なつかしの昭和 40

「資料館・考古館」はこの入館者数をうけて、改善策をとる必要があると考えている。しかしながら、これまでその検討には未着手のままであった。加えて、校外学習の利用がわずかではあるものの減少している現状への目配りをした館運営も必要だろう。本アンケート調査はこうした厳しい実情の下、市民利用を促す改善策検討のための情報収集を目的として実施したものである。

2. 実施方法

本調査は、山田香織（東洋大学准教授）・佐藤優香（東京大学／東洋大学客員研究員）が2025年度取り組んだ研究プロジェクト「文化芸術享受のための環境充実に向けた予備的研究」[2]の一環で、計画段階で実施することにしていたアンケート調査に質問を追加し、おこなった。「資料館・考古館」利用に関する質問項目と選択肢は、「資料館・考古館」スタッフで本研究プロジェクト担当であった 2 名が原案を作成し、山田・佐藤も交えて検討を重ねた。

アンケート調査は、大問16問から構成され、このうち、「資料館・考古館」利用検討のための設問は「詫間町民俗資料館・考古館について」（Q5）、「関心のあるテーマ・分野」「関心のある時代」（Q13,Q14）、「美術館・博物館訪問経験」（Q6,Q7）を用意した（巻末資料参照）。なかでも Q5 では、訪問経験、訪問経験者に限定した質問、情報発信について等、複数の設問を設け、回答してもらう設計とした。

アンケートは以下の通り実施した。山田・佐藤、「資料館・考古館」ならびに三豊市教育委員会事務局生涯学習課が協働し、同市がこれまでおこなってきたアンケート調査の周知・回収方法、回収率を参考にした。対象者数の決定にあたっては支出可能な予算上限も勘案した。

- 対象者　　住民基本台帳（2025年8月1日時点）記載の16歳以上の三豊市在住者
- 対象者数　1000名
- 周知方法　郵送
- 回答者選定　三豊市による無作為抽出
- 回答方法　ウェブ回答（グーグルフォーム）
- 郵送時期　2025年10月上旬
- 回答期限　2025年11月20日（水）23:59

年代展〜少年編〜」を開催した2025（令和7）年度は、常設展リニューアル以降、およそ半年の間、各月の来館者数が例年の7〜15倍を数えたという（山田 2026）。

[2] 本プロジェクトの遂行にあたっては、公益財団法人日本科学協会笹川科学研究助成（実践系）、東洋大学井上記念研究助成、東洋大学人間科学総合研究所研究チームプロジェクトの支援を受けた。

回答者選定は三豊市当該部局、アンケート依頼状の印刷、発送作業は三豊市生涯学習課ならびに「資料館・考古館」担当職員がおこなった。ウェブアンケートの設定には、山田が受け持つゼミナールの学生を雇用した。

3. 調査結果

本アンケート回収数は 214 件（21.4%）だった。市内在住者に限って分析することとしていたことから、以下の分析にあたっては、居住地として三豊市外を選択したデータを除く 212 件のデータを基にした。

回答結果の割合（%）は有効サンプル数に対して、回答数の割合を小数点以下第 5 位で四捨五入したものである。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合がある。また、複数回答（複数の選択肢を選ぶ方式）の場合は、合計値が 100%を越える場合がある。図表中の n（number of case）は、集計対象者の総数を表している。

（1） 基礎情報（Q1, Q2, Q3）

① 回答者の性別・世代（図 1）

各性別による回答割合と実数は、男性 43.87%（93 名）、女性 52.83%（112 名）、回答しない 3.30%（7 名）だった。

図 1 は、世代別の割合を示したもので、世代ごとの各性別の割合もあわせて提示している。世代別では、60 代（約 24%）、40 代（約 21%）、50 代（約 19%）の順に回答数が多い。性別も考慮すると、40 代女性（約 13%）、60 代女性（約 12%）、60 代男性（約 11%）、

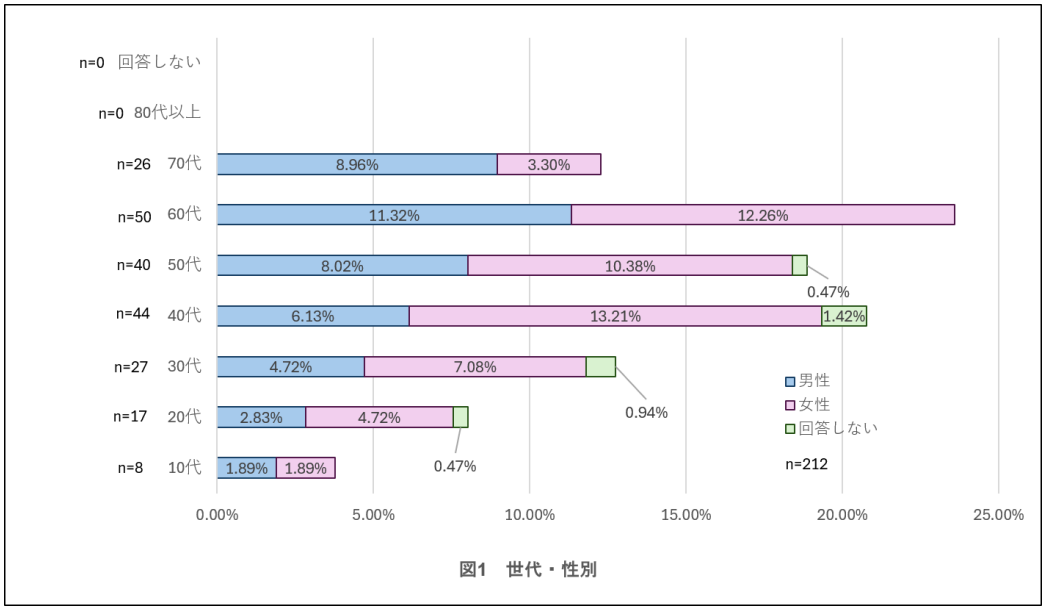

図1 世代・性別

50 代女性（約 10%）の順に多いこともわかる[3]。一方、10 代（約 4%）、20 代（約 8%）の回答数は少ない。ただし、分析にあたっては、本アンケートが世代に配慮しない無作為抽出であることにも考慮する必要もある。

② 地域別（図 2－1、図 2－2）

図 2－1 は、市内 7 町の居住地別の回答数を示したものである。ここでも無作為抽出である点への考慮が必要であるが、回答数は、多い順に高瀬町（約 22%）、豊中町（約 21%）、三野町（約 18%）、詫間町（約 17%）、山本町（約 8%）、財田町（約 8%）、仁尾町（約 7%）となった。

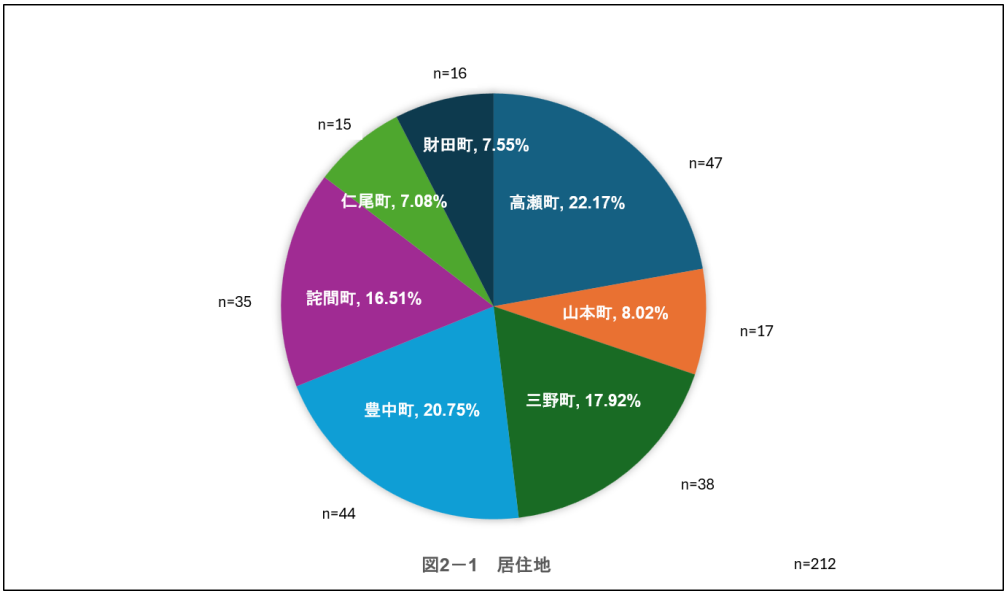

図2－1　居住地

図 2－2 は、町ごとの回答数の世代別割合をグラフにしたものである。世代分布は、町によって相違があることから傾向を捉えるのは難しいが、図 1 との比較でみていくと、三野町は、全体で最も多い回答数である 60 代の回答割合が比較的低く（13%）、30、40，50、70 代の回答の割合がいずれも 20%前後で大差がない。高瀬町も、60 代の回答割合低い（約 11%）一方、40 代は約 3 割で全体よりも高い割合で、かつ全体では割合の低かった 20 代の回答が約 2 割を占めている。

[3] 「資料館・考古館」の管轄部局である三豊市生涯学習課では、本アンケートを実施した約 1 か月前（2025 年 9 月）に、第 4 期三豊市生涯学習計画策定に向けた「市民アンケート調査」を実施している。同アンケートも、無作為抽出、郵送によるアンケート回答依頼の形式であったが、回答は Web 形式と回答用紙郵送のいずれかを選択することができた。「市民アンケート」の世代別回答割合は、70 代が約 3 割を占め、これに 60 代、50 代、40 代が続いている（三豊市教育委員会 2026: 9）。一方、本アンケート調査における 70 代の回答は 30 代とほぼ同数、全体の 1 割強を占める程度である。この結果は、アンケート回答形式（Web 形式のみ）が影響している可能性が高いと推測できる。

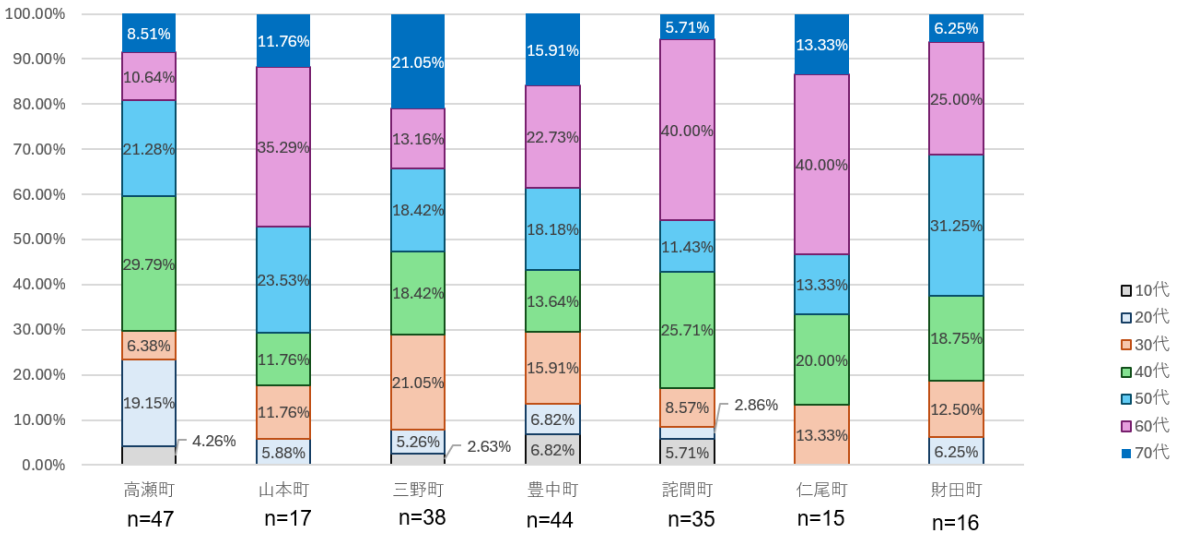

図2－2　各町・世代別

（2）　「資料館・考古館」訪問経験と美術館・博物館訪問経験（Q5, 6, 7）

① 訪問経験・認知度（図 3－1、3－2）

設問 5「詫間町民俗資料館・考古館をどれぐらいご存じですか？」の回答集計結果を 2 つのグラフで図示する。まず図 3－1 は、全体数（n=212）の集計結果で、「行ったことがある」は約 36%、「知っているが、行ったことはない」が約 25%、「名前は聞いたことがあるが、どんな場所かはわからない」が約 12%、「知らない」が約 28%だった。施設名称の認知度は 7 割程度（「知らない」以外）、施設内容までの認知度は 6 割程度（「行ったことがある」、「知っているが行ったことがない」）である。

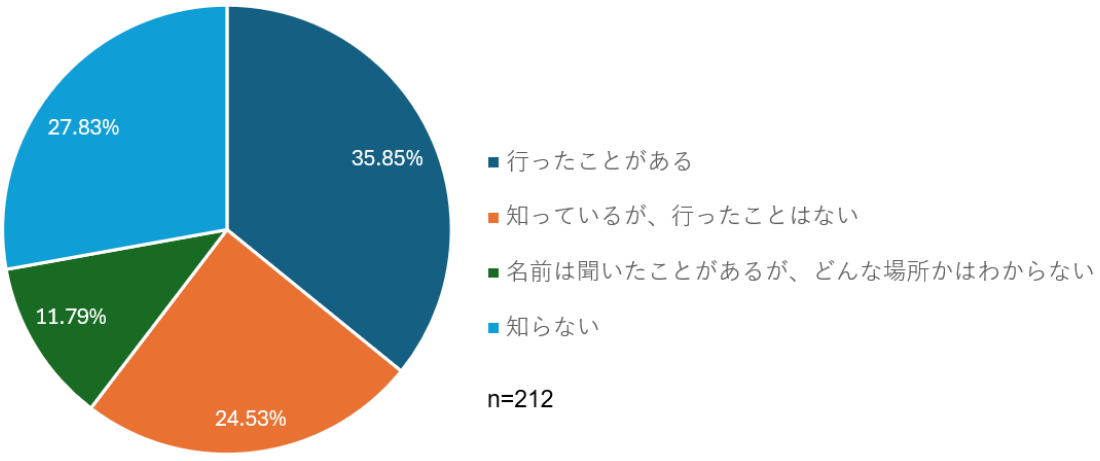

図 3－1　資料館・考古館訪問経験

図 3－2 は、世代別に各選択肢の回答数を図示したものである。母数にかなり差があるものの、10 代は 75%、20 代は約 53%とかなり高い割合で、また、30 代、40 代は 4 割以上に訪問経験があり、認知度もかなり高いことがわかる。一方、50 代では「行ったことがある」が約 18%にとどまり、「知らない」が 4 割を占めていて、他世代と比べて認知度が低いといえる。また 20 代は、半数に訪問経験がある一方で、約 3 割が「知らない」と回答している。

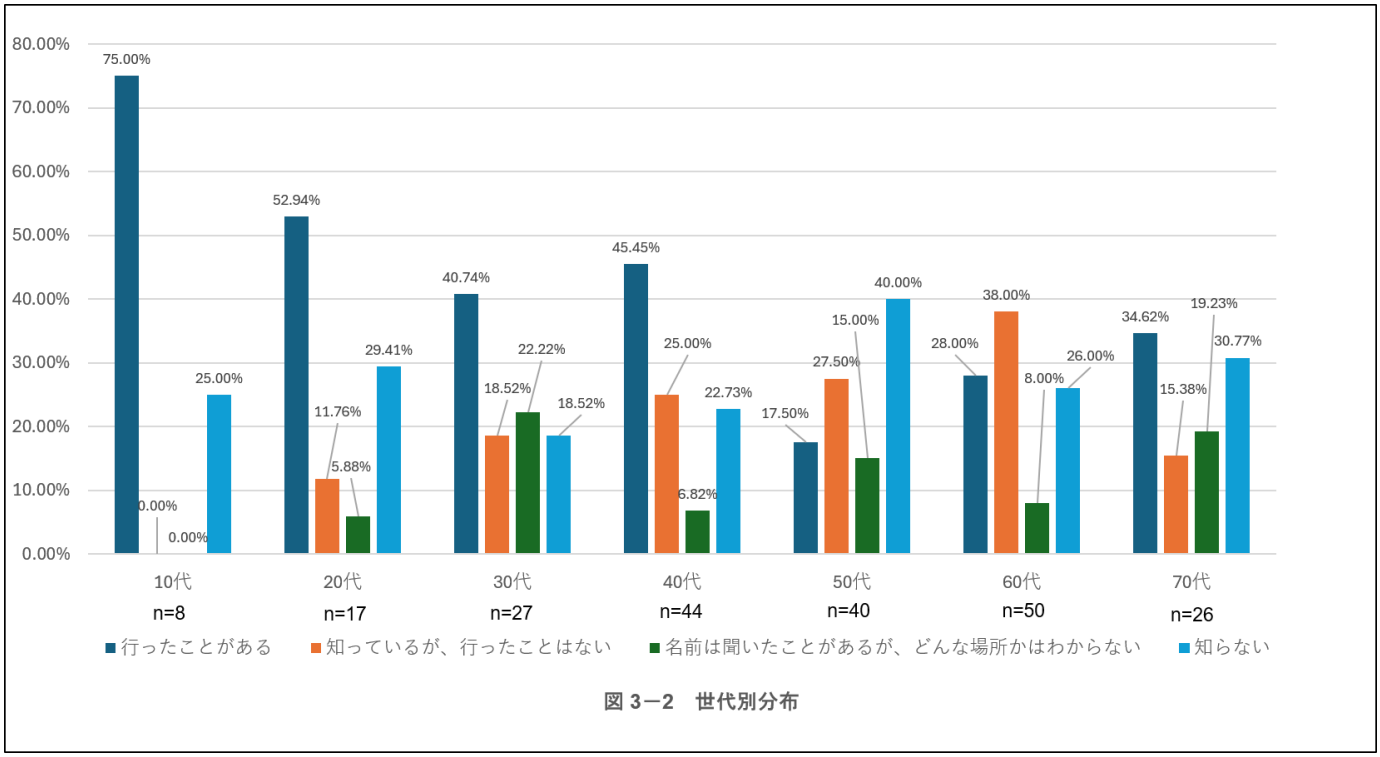

図 3－2　世代別分布

②　「行ったことがある」人の経験（図 4－1、4－2、4－3）

図 4 はいずれも「行ったことがある」人（n=76）に限定した Q5－1 の設問に関するデータを基に集計したものである。このうち図 4－1 は訪問回数を図示したものである。1 回のみが最も多く全体の約 61%で、これに 3 回以上の約 21%、2 回の約 18%が続く。

図 4－2 は「最後に訪問した理由」（択一式）の回答結果である[4]。訪問回数 1 回の場合は、その訪問理由を回答していることになる。図をみると、1 回、2 回、3 回以上いずれにおいても、「1. 学校行事で体験学習の参加した」が最多を占めていて、なかでも訪問回数 1 回の回答者においては、約 4 割が学校行事での訪問を選択している。訪問経験者は全体の 4 割

[4] 「その他」の記述には、「館長さんへの聞き取り調査」「子どもの絵画展示」「子どもを連れて行った」「子どものイベント付き添い」「子どもの学習のため」「子どもたちと行った」があった。

弱で、このうちの約 4 割が学校行事での訪問 1 回のみということである[5]。

図 4－3 は、最後の訪問理由が「1. 学校行事で体験学習の参加した」を選択したすべての回答者（n=39）のそれ以降「資料館・考古館」を訪れていない理由の集計結果である（複数選択可）。「8. 特にない・わからない」が約 46%で最多で、これに、「5. 魅力的な特別展やイベントがない」約 23%、「4. 観たい展示がない」約 20%が続く。

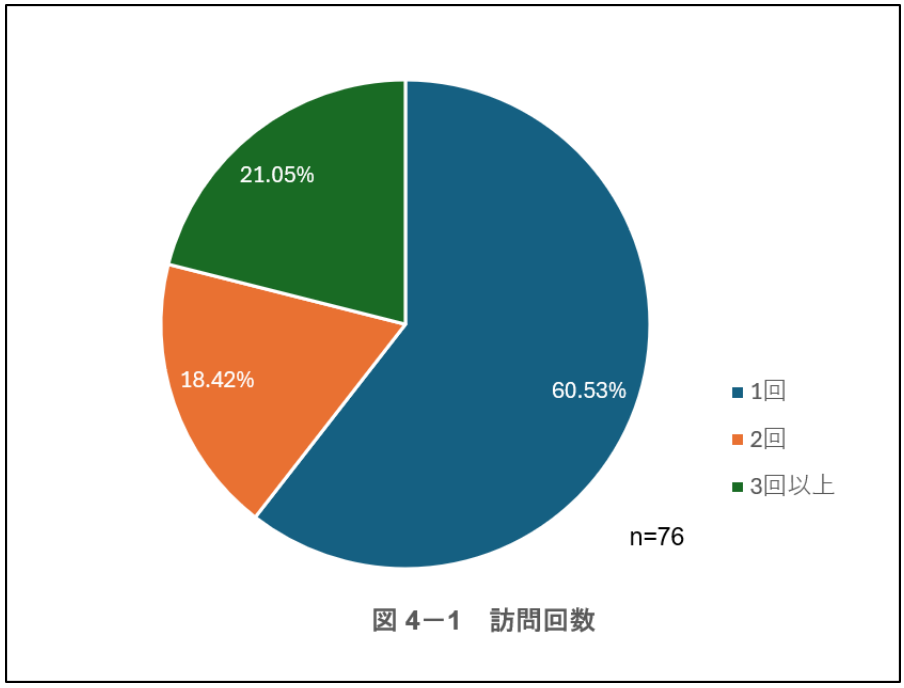

図 4－1　訪問回数

[5] 実数は n=29 なので、全体（n=212）に占める割合は 13.68%である。

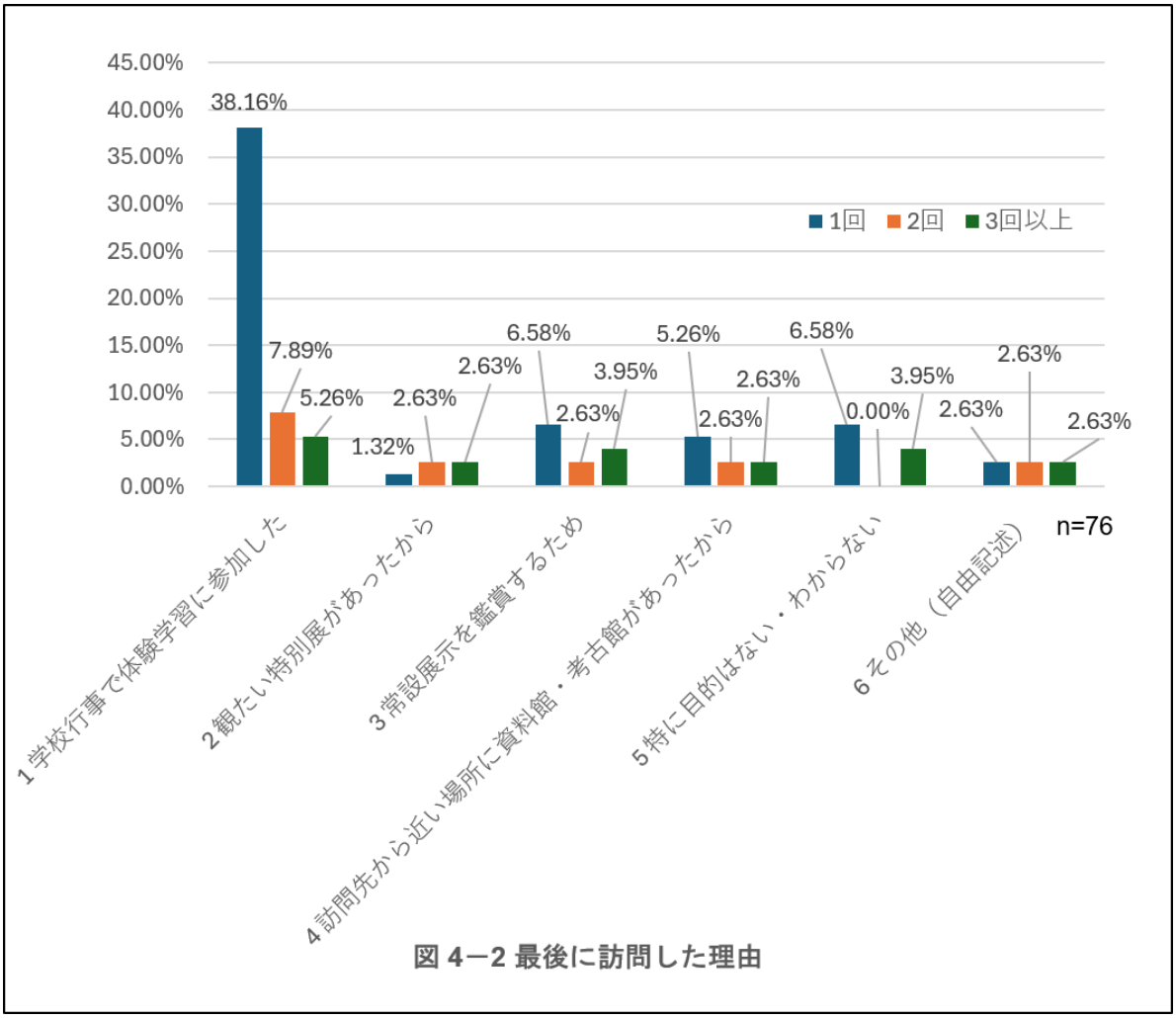

図 4−2 最後に訪問した理由

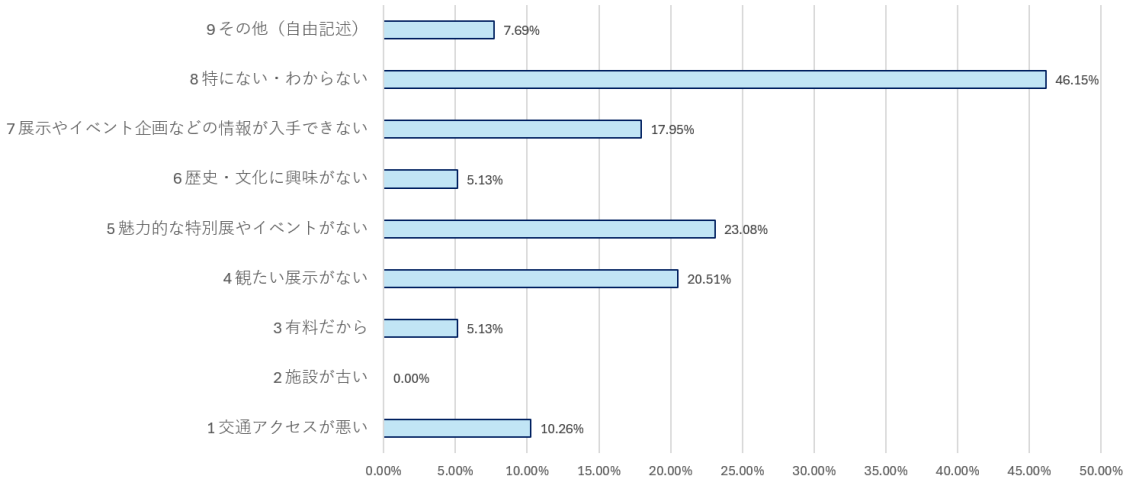

図 4−3 学校行事での訪問以降再訪しない理由（最後の訪問が学校行事だった人） n=39, 複数選択可

③ 「知っているが行ったことがない」人による評価（図 5）

図 5 は、Q5－1 で 「知っているが、行ったことがない」（n=52）の「資料館・考古館」を訪れない理由の集計結果である（複数選択可）。選択肢は図 4－3（最後の訪問が学校行事だった人）と同一とした。回答で最多は「7. 展示やイベント企画などの情報が入手できない」約 42%である。これに「8.特にない、わからない」23%、「4. 観たい展示がない」「5. 魅力的な特別展やイベントがない」それぞれ約 17%が続く。

最多となった理由は、学校行事が最後の訪問だった回答者によって最も多く選ばれた再訪しない理由（「8. 特にない・わからない」46%）と相違がある。この結果からは、この層については、展示・イベント内容の充実に加えて、情報発信を工夫することで訪問・利用を促すことができる余地があると解釈することができるかもしれない。

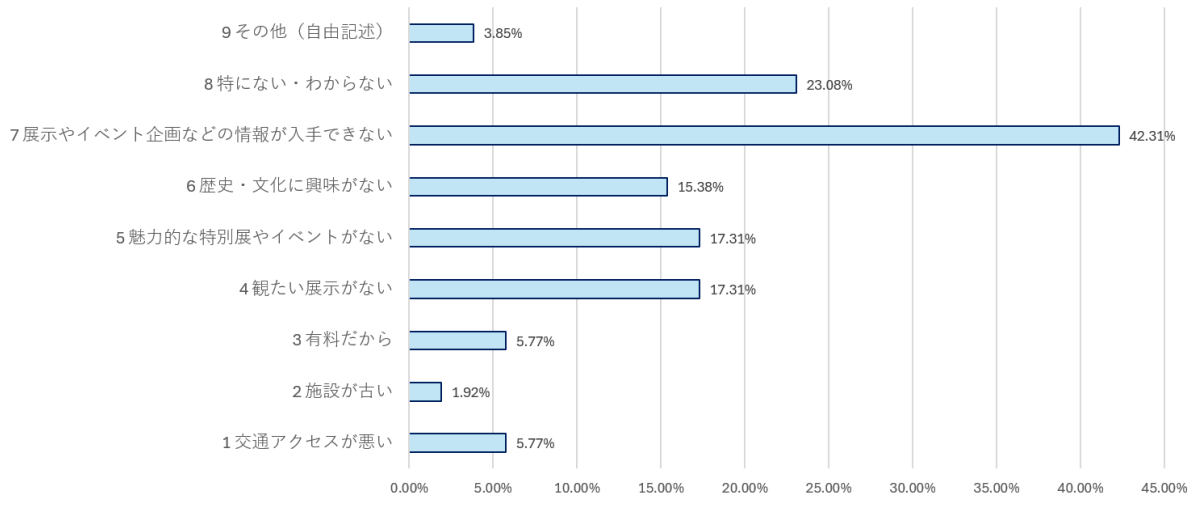

図 5 訪問しない理由（知っているが行ったことがない人）　　n=52, 複数選択可

④ 博物館・美術館の訪問経験（図 6）

（2）③の結果を受けて、以下では、「知っているが行ったことがない」について傾向も提示していくことにする。図 6 は、総数（n=212）および「知っているが行ったことがない」（n=52）の、ここ 10 年における四国ならびに関西にある博物館・美術館の訪問経験（Q6, 7）をグラフにしたものである。ここでは、訪問先には触れず、経験の有無のみを抽出し、「四国あり、関西あり」「四国あり、関西なし・わからない」「四国なし・わからない、関西あり」「四国なし・わからない、関西なし・わからない」の 4 区分で示している。

まず、グラフからは、総数と「知っているが行ったことがない」人のあいだに傾向の差がないことを読み取ることができる。つぎに、アンケート回答者の過半数が、四国・関西どちらの博物館・美術館にも訪問していることがわかる。これに、四国・関西いずれかの博物館・美術館訪問経験を加えると、8 割強の回答者が博物館・美術館を訪れている。さらなる傾向分析が必要ではあるものの、以上の結果からは、博物館・美術館が余暇時間における訪問場所の選択肢から外されているわけではないといえる。

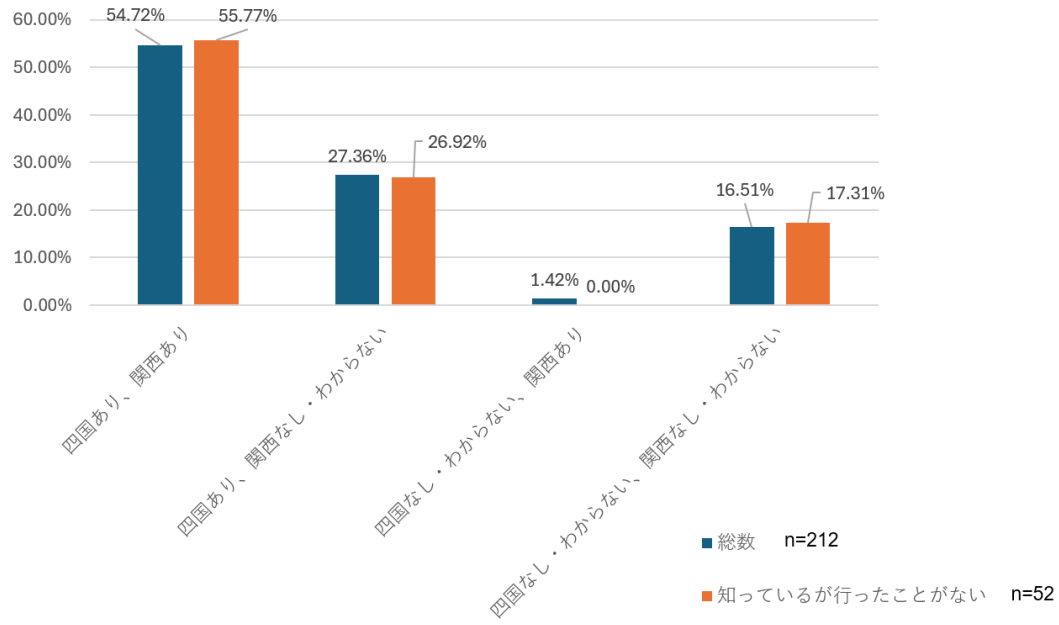

図6　過去10年における美術館・博物館経験の有無

（3）　関心のある分野・テーマ、時代（Q13, Q14）

①　関心のある分野・テーマ（図 7）

図 7 は、関心のある分野・テーマ（Q13）の回答結果を図示したもので、ブルー棒グラフは、すべての回答（n=212）、オレンジ棒グラフは「資料館・考古館」のことを「知っているが行ったことがない」と回答した人（n=52）に限定した回答結果である（複数選択可）。

まず、全体の傾向（ブルー）をみてみると、半数程度の人が、「4．お寺や神社」、「6．歴史のある建物や街並み」を関心のある分野・テーマとして選択している。また、3 割程度の人が「20．工芸」「12．絵画」「14．建築」「22．祭り・伝統芸能」「5．歴史」を挙げている。「29．特にない・わからない」は約 11%だった。

一方、「資料館・考古館」を「知っているが行ったことがない」人（オレンジ）では、全体同様、5 割程度が「4．お寺や神社」「6．歴史のある建物や街並み」を選択している。また、これに「20.工芸」「14．建築」「22．祭り・伝統芸能」が続くところは全体と同じである。しかしながら、「20．工芸」が 4 割、「14．建築」が 3 割半を占めている点は、全体と異なる。こちらの方が、いずれも若干ではあるが高い割合になっている。全体では 3 割を占める「12．絵画」は 2 割強、「5．歴史」は 2 割弱にとどまっている。

②　関心のある時代（図 8）

図 8 は関心のある時代（Q14）の回答結果をグラフにしたものである。図 7 同様、ブルー棒グラフは、すべての回答（n=212）、オレンジ棒グラフは「資料館・考古館」のことを「知っているが行ったことがない」と回答した人（n=52）に限定した回答結果である（複数選択

可)。

いずれにおいても「4. 近世」に対する関心が最も高く 45%前後である。これに続くのが全体は「3. 中世」と「5. 近代」で、約 39 であるのに対し、「知っているが行ったことがない人」は、「5. 近代」44%、「2. 古代」34%、「3. 中世」33%の順となっている。

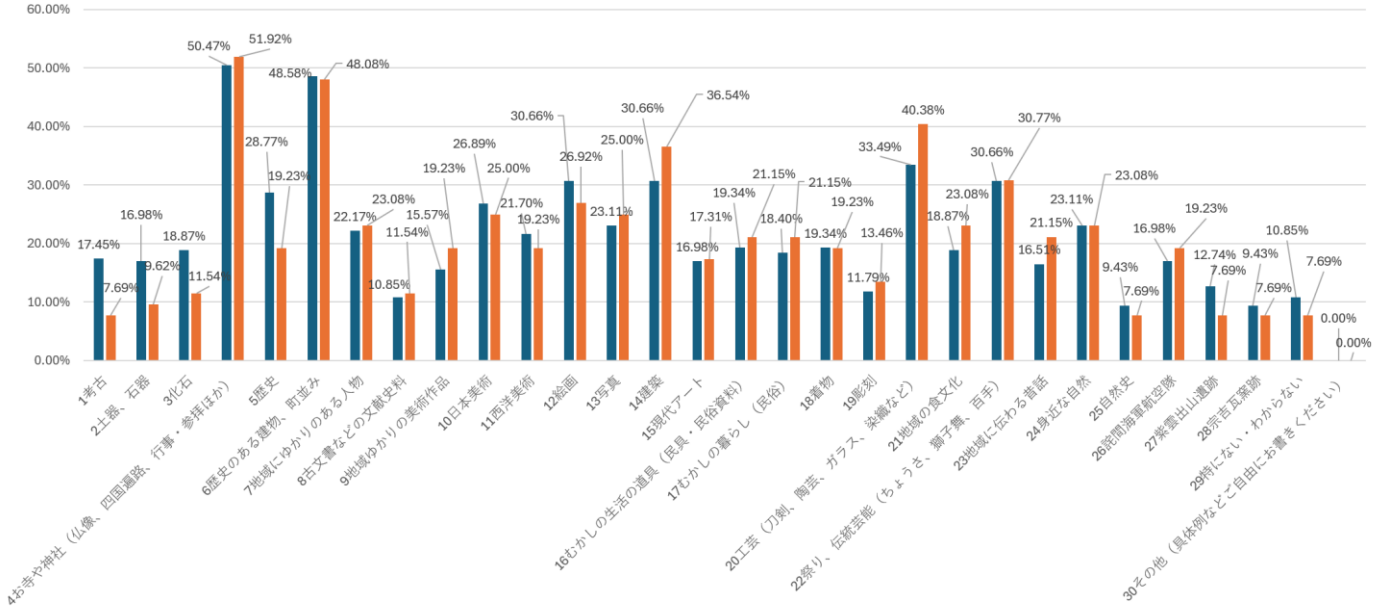

図 7　関心のある分野・テーマ（複数選択可）　n=212　n=52

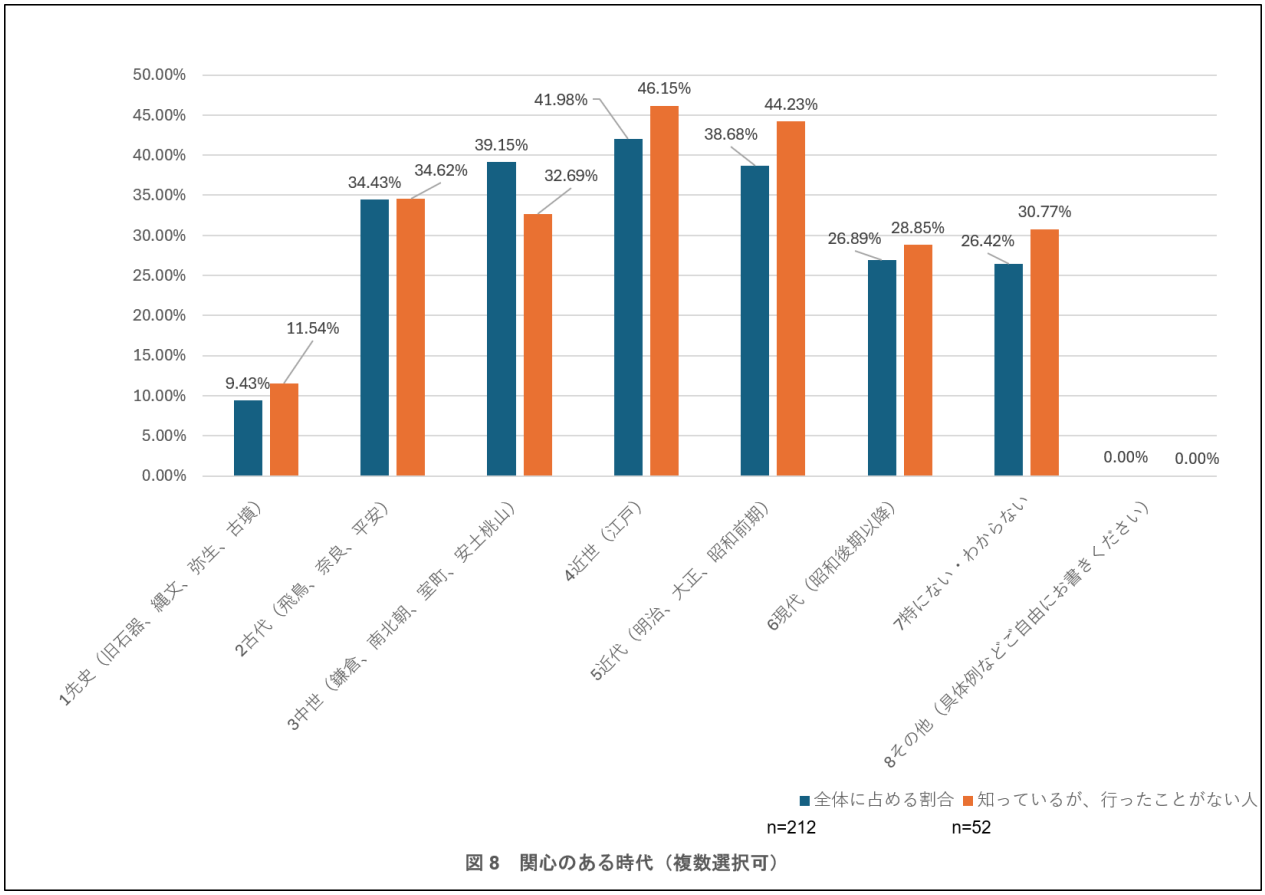

図 8　関心のある時代（複数選択可）　n=212　n=52

（4） 情報発信のあり方（Q5-3）

最後に、情報発信のあり方に関する結果を 2 つのグラフで図示し、解説する。

一つ目のグラフ図 9－1 は、全体（n=212）ならびに「知っているが行ったことがない人」（n=52）に限定して、望む情報発信の方法を示したものである（複数選択可）。いずれにおいても、半数以上が「2. 市の広報誌」による情報獲得を望む結果となっている。これに続くのが、どちらも「1. ポスター・チラシ」で、約 3 割の人が選択している。全体ではさらに「7. 市公式ホームページ」25%「9. SNS」24%が続き、「知っているが行ったことがない人」においては、「8. 市公式 LINE」25%が続く。全体で 2 割半を占める「7. 公式ホームページ」を選択した人は 17%で、さほど多くない。広報誌、チラシ・ポスターのあとに続くメディアには、相違があるということである。

二つ目のグラフ図 9－2 は、世代別分布を表したものである。特徴的な傾向としては、まず、「2. 市の広報誌」を選択した人の数は、世代が上がることに増えていて、40 代以降では各世代、半数を越えている点を挙げることができる。「1. チラシ・ポスター」も、そこまで割合は高くないものの同じ傾向がみられる。次に、「9. SNS」を選択した人の割合は、20 代をピークに若い世代の方が高く、世代が上がるにつれて減少している点も見逃すことができないだろう。このほか、「3. 子どもに学校で配布されるイベントガイド」の選択率は、子育て世代といってよいであろう 30 代、40 代が他世代に比べると高い。また、「7. 市公式ホームページ」は、40 代以上の各世代で 25～40%弱の回答を得ている。なかでも 70 代では、「2. 市の広報誌」に次ぐ割合となっている。

以上からは、従来からの紙媒体による情報発信と、オンライン・メディアによる情報発信の融合が求められており、ターゲット層によってその度合いを見極め、発信戦略にも工夫が必要といえる。

30 代と 60 代にある「その他（自由記述）」における記述は次の通りだった。

- なぜ質問が知りたい前提なのか分からないが、三豊市の財政危機の中、優先順位を考えるべき対象だと思う。
- 知りたいとも思わない。

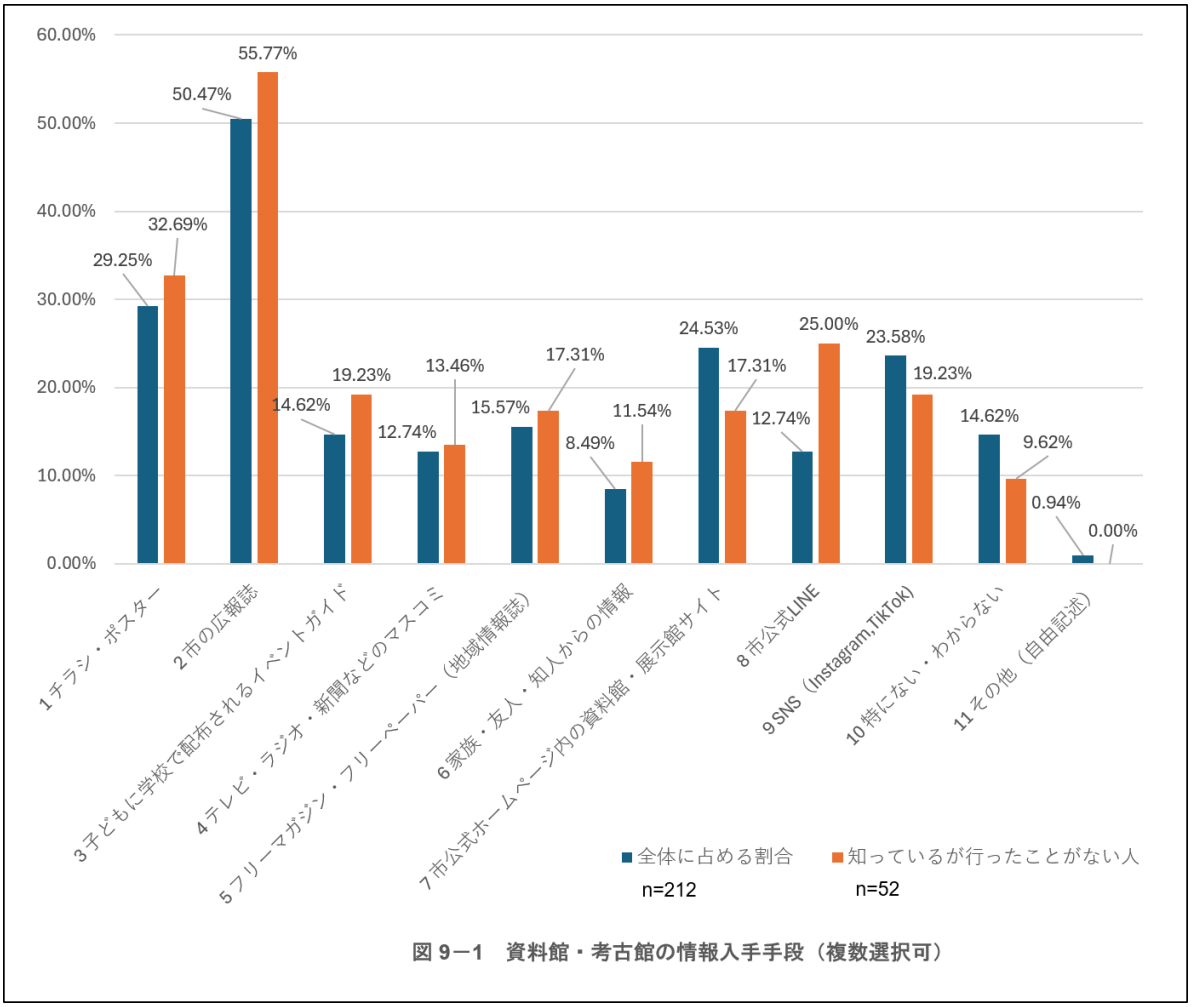

図 9－1　資料館・考古館の情報入手手段（複数選択可）

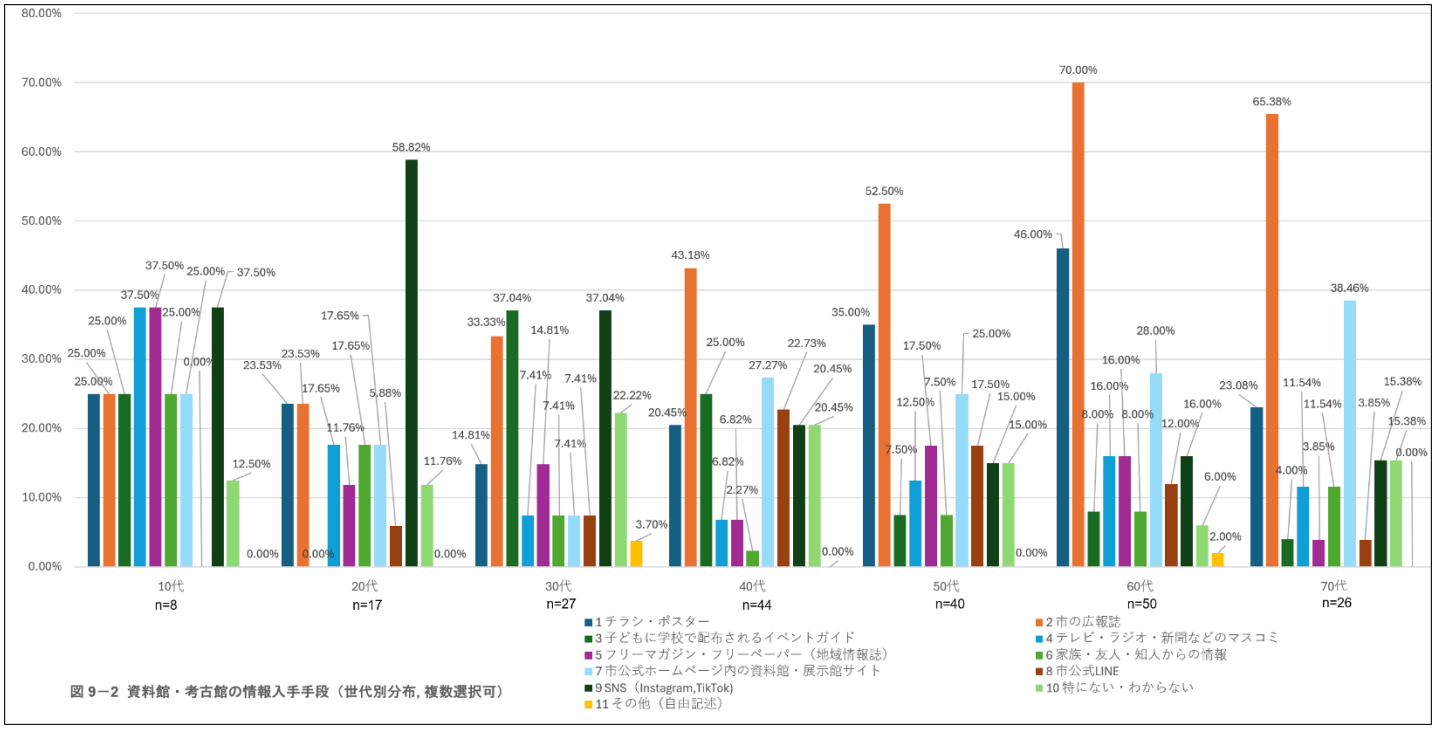

図 9－2 資料館・考古館の情報入手手段（世代別分布, 複数選択可）

4. おわりに：今後の利用拡充にむけて

（1） データから明らかになったこと

本報告では、アンケート調査項目のなかから、「資料館・考古館」の利用拡充検討にかかる基礎的情報を分析した。いま一度、検討のための参照点となりうる結果を列記する。

【訪問経験】

- 訪問経験は全体の約 3 割半だった。
- このうち、「学校行事での訪問が最後の訪問／1 回のみの訪問」が約 4 割を占めた。
- 世代別分布では、10 代は 75%、20 代は約 53%に訪問経験があり、かなり高い割合といえる。30 代、40 代は 4 割以上に訪問経験がある。50 代の訪問経験は 2 割弱にとどまった。

【訪問・再訪しない理由】

- 「学校行事での訪問が最後の訪問／1 回のみの訪問」と回答した人のうち、5 割弱の人が、再訪しない理由として「8. 特にない・わからない」を選択した（複数選択可）。これに続くのが「4. 魅力的な特別展やイベントがない」約 23%、「5. 観たい展示がない」約 20%であった。
- 「知っているが、行ったことがない」と回答した人が挙げた訪れない理由は、「7. 展示やイベント企画などの情報が入手できない」が 4 割強で最多だった。これに「8.特にない、わからない」23%、「4. 観たい展示がない」「5. 魅力的な特別展やイベントがない」約 17%が続いた。

【認知度】

- 市民による施設内容まで及ぶ認知度（「行ったことがある」、「知っているが行ったことがない」）は 6 割程度、名称のみも含む（「行ったことがある」、「知っているが行ったことがない」「聞いたことがあるが、どんな場所かはわかならない」）は 7 割程度である。
- 世代別分布をみると、30 代（内容まで約 6 割、名称のみまで含む 7 割）、40 代（内容まで約 7 割、名称のみまで含む 8 割弱）は、他世代よりも高い。
- 全体の「知らない」割合は 3 割弱であるのに対し、50 代では名称のみを含む認知度は 6 割、つまり、「知らない」が 4 割を占めている。50 代は、「行ったがある」も 2 割弱と低い。
- 10 代は、訪問経験のある 7 割半以外の 2 割半が「知らない」と回答している。20 代は、半数に訪問経験がある一方で、約 3 割が「知らない」と回答している。この世代には、「訪問経験がある」「知らない」の二極化の傾向がみられる。

【博物館・美術館訪問経験】

- 全体の 8 割強が、過去 10 年のあいだに四国・関西にある博物館・美術館を訪れている。博物館・美術館は余暇時間等における訪問場所としての選択肢となっている可能

性が高い。ただし、訪問先に関する詳細な分析も必要だろう。

【関心のあるテーマ・分野、時代】

- 関心のあるテーマ・分野は、「4．お寺や神社」、「6．歴史のある建物や街並み」がいずれも 5 割程度と最多で、これに 3 割程度で「20．工芸」「12．絵画」「14．建築」「22．祭り・伝統芸能」「5．歴史」が続く。
- 情報発信のしかた次第では訪問の可能性があると推測される「知っているが行ったことがない」人たちについては、同様に 5 割程度が「4．お寺や神社」、「6．歴史のある建物や街並み」を挙げているが、これに続くのは「20．工芸」「14．建築」「22．祭り・伝統芸能」のみで、「20．工芸」が 4 割、「14．建築」が 3 割半を占めている。
- 関心のある時代は「近世」が最多である。

【情報発信】

- 各世代とも「2．市の広報誌」、「1．チラシ・ポスター」が高い。この傾向は 40 代以降で特に顕著である。
- 若い世代は SNS の割合が高く、20 代においては極めて高い割合を占めている。

(2)　今後にむけて

具体的な方策の検討は三豊市詫間町民俗資料館・考古館に委ねることとし、以下では総論的な検討の方向性を提言したい。

調査から、市民による同館の認知度はある程度あること、全体の訪問は必ずしも高いとは言えないこと、訪問経験がある場合でもあまり再訪につながっていないこと、訪問経験、認知度には世代差があることがわかった。また、関心のあるテーマ・分野、時代の傾向、博物館・美術館訪問経験も明らかになったことから、現状ふまえ、かつ、市民の関心の傾向も参考にして、同館の展示・イベントの充実が図られることが期待される。検討に際しては、本報告書では分析していない、市内各町ならびに各町の世代の関心や傾向、本報告では扱っていない文化活動経験に関する傾向に目配りすることも有効かもしれない。

情報発信の手段・方法にも工夫が必要だろう。今回の調査では、世代によって求められる情報メディアに相違が見られたことから、ターゲット層を想定した事業・イベントを展開する場合は、その層にあったメディアを選択することが必須だろう。デジタルメディアの利用に際しては、ターゲットに届く可能性を高めるための戦略的情報発信が求められる。

最後に、校外学習での訪問について言及しておきたい。他地域、全国的な傾向の把握、それらとの比較も必要であるだろうが、本課題の検討にあたって、学校行事での訪問についての検討の余地はないだろうか。なぜなら、学校行事での訪問が再訪のきっかけづくりになる可能性があるのならば、大々的ではなくとも、そこに、「資料館・考古館」を市民にひらくしかけを組み込むことができないだろうかと考えるからである。他方、校外学習での訪問が「資料館・考古館」利用・再訪の契機のひとつになる余地がないのなら、今回の課題である同館の利用拡充は、校外学習の実践とはいったん切り離して検討する必要がある。その場合

は、アンケートでも一定数を得ていた、展示・イベントの充実が必要だろうが、いま同館が着手し始めた、観る／観せる役割の固定化を脱却し、施設を市民にひらき、施設が市民の日常的な活動の場・集いの場になるような実践に積極的に取り組んでいくことも求められるのではないだろうか。

資料館・考古館においては、これまで長期的な事業方針・計画の策定には時間を割いてこなかったと聞いている。これを契機とし、本アンケートの結果、そして本年度策定された『三豊市第 4 期生涯学習計画』に示されている同館が担うべき役割・事業もふまえて、館の事業方針ならびに計画が策定され、市民のための文化施設としての機能が十分発揮されるようになることを期待する。

付記：本アンケートは、公益財団法人日本科学協会笹川科学研究助成（実践系 2025－8007）、東洋大学井上記念研究助成（個人）、東洋大学人間科学総合研究所研究チームプロジェクトの支援を受けて実施したものである。

参照資料

文化庁 2025『文化に関する世論調査報告書』（最終閲覧日：2026 年 9 月 14 日，https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/94238501_01.pdf）

三豊市教育委員会 2025『香川県三豊市詫間町民俗資料館・考古館 年報』6（令和 5 年度）（最終閲覧日：2026 年 9 月 14 日，https://www.city.mitoyo.lg.jp/material/files/group/39/nennpou6_koukokan.pdf）

——— 2026『第 4 期三豊市生涯学習推進計画』（最終閲覧日：2026 年 9 月 14 日，https://www.city.mitoyo.lg.jp/material/files/group/39/dai4kisuisinkeikaku.pdf）

三豊市詫間町民俗資料館・考古館ホームページ（最終閲覧日：2026 年 9 月 14 日，https://www.city.mitoyo.lg.jp/kakuka/kyouikuiinkai/shogai/3_1/mitoyoshitakumatyouminnzokusiryoukannkoukokann/index.html）

文部科学省 2017『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』（最終閲覧日：2026 年 9 月 18 日，https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_003.pdf）

山田香織　2026「地域芸術祭がエージェンシーを発揮する―新たなるネクサスの生成とゆるやかな人材育成―」『観光振興研究』6(3), pp. 28-39.

巻末資料

『詫間町民俗資料館・考古館と文化芸術体験について』アンケート質問票

以下は、ウェブ形式の回答のための補助資料として、三豊市詫間町民俗資料館・考古館ホームページに掲載した質問票である。データに見出しがついていないのは、同サイトでこのアンケートに関する説明をしているためである。

【ご自身について】

Q1. あなたの年代をお答えください。

1. 10 代
2. 20 代
3. 30 代
4. 40 代
5. 50 代
6. 60 代
7. 70 代
8. 80 代以上
9. 回答しない

Q2. あなたの性別をお答えください。

1. 男性
2. 女性
3. その他／回答しない

Q3. お住まいの地域をお答えください。

1. 高瀬町
2. 山本町
3. 三野町
4. 豊中町
5. 詫間町
6. 仁尾町
7. 財田町
8. その他

【博物館全般のイメージについて】

Q4. あなたがもつ博物館のイメージを教えてください。該当する選択肢すべてを選んでください。

□興味がある
□好きだ
□きっかけがあれば行きたい
□積極的に行きたい
□関心のあるテーマなら行きたい
□興味はないが、大切なことだと思う
□自分とは関係ない
□敷居が高い
□接しにくい
□暗い
□特にない・わからない
□その他（自由記述）

【詫間町民俗資料館･考古館について】

Q5.　詫間町民俗資料館・考古館をどれぐらいご存じですか？

1. 行ったことがある
2. 知っているが、行ったことはない
3. 名前は聞いたことがあるが、どんな場所かはわからない
4. 知らない

Q5-1　 Q5 で「行ったことがある」を回答した方

Q5－1－1　詫間町民俗資料館・考古館にこれまで何度訪れたことがありますか？

□1 回
□2 回
□3 回以上

Q5－1－2　最後に訪れたのはいつですか？

□2019 年～現在
□2010 年～2018 年
□それ以前

Q5－1－3 最後に訪問した理由であてまるものを選んでください（択一式）

□　学校行事で体験学習に参加した
□　観たい特別展があったから
□　常設展示を鑑賞するため
□　訪問先から近い場所に資料館・考古館があったから

□　特に目的はない・わからない
□　その他（自由記述）

Q5-1-4　Q5-1-3 で「学校行事で体験学習に参加した」を回答した人のみ
学校行事以降再訪していない理由であてはまるものをすべて選んでください。
□交通アクセスが悪い
□施設が古い
□有料だから
□見たい展示がない
□魅力的な特別展やイベントがない
□歴史・文化に興味がない
□展示やイベント企画などの情報が入手できない
□特にない・わからない
□その他（自由記述）

Q5－2　「知っているが、行ったことはない」を回答した人
Q5-2-1　詫間町民俗資料館・考古館を訪問しない理由は何ですか？
□交通アクセスが悪い
□施設が古い
□有料だから
□見たい展示がない
□魅力的な特別展やイベントがない
□歴史・文化に興味がない
□展示やイベント企画などの情報が入手できない
□特にない・わからない
□その他（自由記述）

Q5－3　詫間町民俗資料館・考古館の情報を今後どのような媒体から知りたいですか？あてはまるものをすべて選んでください。
□チラシ・ポスター
□市の広報誌
□子どもに学校で配布されるイベントガイド
□テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ
□フリーマガジン・フリーペーパー（地域情報誌）
□家族・友人・知人からの情報
□市公式ホームページ内の資料館・展示館のサイト

□市公式 LINE
□SNS（Instagram、TikTok）
□特にない・わからない
□その他（具体例があればお書きください）（自由記述）

【文化芸術の鑑賞活動について】

Q6　過去 10 年ぐらいのあいだで、あなたが訪れたことのある四国の博物館・美術館をすべて選んでください。

香川県立ミュージアム
瀬戸内海歴史民俗資料館
高松市美術館
四国村
石の民俗資料館
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
丸亀市立資料館
鎌田共済会郷土博物館
東山魁夷せとうち美術館
金刀比羅宮 宝物館
灸まん美術館
観音寺ふるさと学芸館
地中美術館
豊島美術館
直島新美術館
徳島県立博物館
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立近代美術館
あすたむらんど徳島
大塚国際美術館
愛媛県総合科学博物館
愛媛県歴史文化博物館
愛媛県美術館
タオル美術館
高知県立高知城歴史博物館
高知県立歴史民俗資料館
高知県立牧野植物園
その他（自由記述）

Q7　過去 10 年ぐらいのあいだで、あなたが訪れたことのある関西周辺の博物館・美術館をすべて選んでください。

大阪歴史博物館（大阪市）
大阪自然史博物館（大阪市）
大阪中之島美術館（大阪市）
国立民族学博物館（吹田市）
京都国立博物館（京都市）
京都市京セラ美術館（京都市）
奈良国立博物館（奈良市）
兵庫県立歴史博物館（姫路市）
兵庫県立考古博物館（加古郡播磨町）
兵庫県立美術館（神戸市）
岡山県立美術館（岡山市）
岡山県立歴史博物館（岡山市）
岡山市立オリエント美術館（岡山市）
大原美術館（倉敷市）
倉敷考古館（倉敷市）
備前長船刀剣博物館（瀬戸内市）
広島県立歴史博物館（福山市）
広島県立美術館（広島市）
広島平和記念資料館（広島市）
大和ミュージアム（呉市）
その他（自由記述）

Q8　あなたは、この 1 年間（2024 年 10 月～2025 年 10 月）に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術イベントを外出を伴う形で鑑賞（劇場やコンサートホール、美術館、映画館、史跡等の訪問、イベント会場等における鑑賞）したことはありますか？この中からあてはまるもの全て選んでください。

1. オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など
2. ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など
3. 美術※美術には、絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾、メディアアート（コンピュータや映像を活用したアート）などを含む。
4. 美術のうち、特に現代美術（前選択肢「美術」において例示された表現を同様に含む。）
5. 現代演劇、児童演劇、人形劇

6. ミュージカル
7. バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど
8. ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップ等)、ジャズダンス、民俗舞踊（フラダンス、サルサ、フラメンコ等)、社交ダンスなど
9. 日本舞踊
10. 伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽、声明など）
11. 演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）
12. 花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント
13. 自然史博物館、科学館、動物園、水族館など
14. 映画（アニメーション映画を除く）
15. アニメーション
16. 歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など)、遺跡、名勝地（庭園など）の文化財）
17. 歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など
18. 地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）
19. 漫画に関するイベント、展示等
20. 文学作品（小説、詩、短歌、俳句など）に関するイベント、展示等
21. その他 （具体的に：・・）
22. 鑑賞したものはない

Q8-1　Q8 で「22 鑑賞したものはない」以外を選択した人

あなたは、この 1 年間（2024 年 10 月～2025 年 10 月）に、どのくらいの頻度でそれらの文化芸術活動を行いましたか？頻度について、1 つ選んでお答えください。

1. 年に 1 回程度
2. 年に数回程度
3. 月に 1 ～ 3 回程度
4. 週に 1 回程度
5. 週に複数回

Q8-2　Q8 で「22. 鑑賞したものはない」と回答した人のみ

鑑賞しなかった理由は何ですか？この中からあてはまるもの全て選んでください。

1. 生活圏で公演や展覧会などが行われていない
2. 夜間に公演や展覧会などが行われていない
3. 公演や展覧会などの情報が入手できない
4. 一緒に行く仲間がいない
5. 関心がない
6. 入場料・交通費など費用がかかり過ぎる

7. 公演や展覧会などが人気で、チケットの入手が困難
8. 時間がなかなか取れない
9. 健康上の理由から
10. 小さな子どもを連れて行ける施設や行事が少ない
11. バリアフリーや高齢者・障害者対応サービスが整っている施設や行事が少ない
12. 魅力ある公演や展覧会などが少ない
13. テレビ、ラジオ、ＣＤ・ＤＶＤ、インターネットなどにより鑑賞できる（鑑賞した）ので
14. 公演や展覧会などが中止になった、又は外出を控えたから
15. その他 （具体的に）
16. 特にない・分からない

Q9 あなたは、この１年間（2024 年１０月～2025 年 10 月）に、メディア（インターネット配信、テレビ、ラジオ、CD・DVD、書籍、雑誌、新聞等）を通じて鑑賞したものはありますか？この中からあてはまるもの全て選んでください。

1. オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など
2. ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など
3. 美術※美術には、絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真、デザイン、建築、服飾、メディアアート（コンピュータや映像を活用したアート）などを含む。
4. 美術のうち、特に現代美術（前選択肢「美術」おいて例示された表現を同様に含む。）
5. 現代演劇、児童演劇、人形劇
6. ミュージカル
7. バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど
8. ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップ等)、ジャズダンス、民俗舞踊（フラダンス、サルサ、フラメンコ等)、社交ダンスなど
9. 日本舞踊
10. 伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽、声明など）
11. 演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）
12. 花展、盆栽展、茶会などの展示、イベント
13. 自然史博物館、科学館、動物園、水族館など
14. 映画（アニメーション映画を除く）
15. アニメーション
16. 歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など)、遺跡、名勝地（庭園など）の文化財）
17. 歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など
18. 地域の伝統的な芸能や祭り（民俗文化財）

19. 漫画
20. 文学作品（小説、詩、短歌、俳句など）
21. その他 （具体的に：・・）
22. 鑑賞したものはない

Q9-1 Q9 で「22 鑑賞したものはない」以外を選択した人
あなたは、この 1 年間（2024 年 10 月～2025 年 10 月）に、どのくらいの頻度でそれらの文化芸術活動を行いましたか？頻度について、1 つ選んでお答えください。
1. 年に 1 回程度
2. 年に数回程度
3. 月に 1 ～ 3 回程度
4. 週に 1 回程度
5. 週に複数回

【鑑賞以外の文化芸術活動について】
Q10 あなたは、この 1 年間（2024 年 10 月～2025 年 10 月）に、鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動を実践（創作や出演、習い事、祭や体験活動への参加など）したり、活動を支援したことはありますか？この中からあてはまるもの全て選んでください。
1. 文学、音楽、美術、演劇、舞踊などの作品の創作
2. マンガ、映画などの映像作品、ＣＧ、ゲーム、メディアアートなどの作品の創作
3. 音楽の演奏や、演劇・舞踊・映画への出演など
4. 音楽、バレエ、ダンス、美術などの習い事の受講
5. マンガ、映画などの映像作品、ＣＧ、ゲーム、メディアアートなどの習い事の受講
6. 茶道、華道、書道などの実践、習い事の受講
7. 郷土料理や年中行事の料理など伝統的な食文化の継承活動への参加
8. 地域の伝統的な芸能や祭りへの参加
9. 子どもの文化芸術体験のための支援活動
10. 高齢者・障害者・在住外国人の文化芸術鑑賞、体験促進のための支援活動
11. 美術館・博物館・科学館・動物園・水族館などにおける案内や作品解説などの支援活動
12. 劇場・ホールなどにおける案内や制作補助などの支援活動
13. 音楽祭・映画祭・アートフェスなどの開催のための支援活動
14. 歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動
15. その他 （具体的に：・・）
16. 特にしていない

Q10－1　Q10 で「16. 特にしていない」以外を選択した人

あなたは、この 1 年間（2024 年 10 月～2025 年 10 月）に、どのくらいの頻度でそれらの文化芸術活動を行いましたか？頻度について、1 つ選んでお答えください。

1. 年に 1 回程度
2. 年に数回程度
3. 月に 1 ～ 3 回程度
4. 週に 1 回程度
5. 週に複数回

【瀬戸内国際芸術祭の認知度と関わり】

Q11. アートフェスティバル「瀬戸内国際芸術祭」という名称を聞いたことはありますか？

はい

いいえ

Q11－1 Q11 で「はい」を選択した方

Q11－1－1　瀬戸内国際芸術祭のことで、知っていることはありますか？知っていることをすべて選択してください。

1. 3 年に 1 度開催される
2. 会場となる離島などにはアート作品が展示されている
3. 三豊市の粟島は 2013 年から瀬戸内国際芸術祭の会場となっている
4. 作品展示がされる場所は、屋外、空家、閉校になった学校などである
5. ボランティア組織「こえび隊」があり、受付や作品制作・撤去などの作業をおこなう
6. 三豊市には独自のボランティア組織「海ほたる隊」がある
7. 芸術祭の運営には行政（香川県、各市町）も関わっている
8. そのほか（自由記述・・・）

Q11－1－2　 Q11 で「はい」を選択した方

瀬戸内国際芸術祭の作品鑑賞をしたことはありますか？

ある

ない

わからない

Q11－２　Q11-1-2 で「はい」を回答した方

Q11-2-1 作品鑑賞したのはいつですか。すべて選択してください

2025 年　第 6 回瀬戸内国際芸術祭会期中

2022 年　コロナ禍・第 5 回瀬戸内国際芸術祭会期中

2019 年　第 4 回瀬戸内国際芸術祭会期中

2016 年　第 3 回瀬戸内国際芸術祭会期中
2013 年　第 2 回瀬戸内国際芸術祭会期中（西讃地区初参加）
2010 年　第 1 回瀬戸内国際芸術祭会期中
会期外の年・時期

Q11-2-2　Q11-1-2 で「はい」を回答した方
作品鑑賞のために訪れたことのある場所をすべて選択してください
直島
豊島
女木島
男木島
小豆島
大島
犬島
瀬戸大橋エリア
本島
高見島
粟島
伊吹島
高松港
宇野港
志度・津田
引田
宇多津
その他（自由記述・・・）

Q12　粟島の芸術家が長期滞在して作品制作をおこなう活動（アーティストインレジデンス）など、瀬戸内国際芸術祭の支援したことはありますか（例：ボランティアなど）
ある
ない

Q12-1　Q12「ある」を選択した方
Q12-1-1 どのような活動支援をしたことがありますか　該当するものをすべて選択してください
こえび隊活動
海ほたる隊活動

企業／市役所 OB ボランティア
業務として関与
ワークショップに参加した
パフォーマーとして参加した
その他（自由記述・・・）

【関心のあるジャンル･時代】

Q13 あなたの興味のある分野やテーマをすべて選んでください

□考古
□土器、石器
□化石
□お寺や神社（仏像、四国遍路、行事・参拝ほか）
□歴史
□歴史のある建物、町並み
□地域にゆかりのある人物
□古文書などの文献史料
□地域ゆかりの美術作品
□日本美術
□西洋美術
□絵画
□写真
□建築
□現代アート
□むかしの生活の道具（民具・民俗資料）
□むかしの暮らし（民俗）
□着物
□彫刻
□工芸（刀剣、陶芸、ガラス、染織など）
□地域の食文化
□祭り、伝統芸能（ちょうさ、獅子舞、百手）
□地域に伝わる昔話
□身近な自然
□自然史
□詫間海軍航空隊
□紫雲出山遺跡
□宗吉瓦窯跡

□特にない・わからない
□その他（具体例などご自由にお書きください）

Q14. あなたの関心のある時代をすべて選んでください。

□先史（旧石器、縄文、弥生、古墳）
□古代（飛鳥、奈良、平安）
□中世（鎌倉、南北朝、室町、安土桃山）
□近世（江戸）
□近代（明治、大正、昭和前期）
□現代（昭和後期以降）
□特にない・わからない
□その他（具体例などご自由にお書きください）

【文化的環境について】

Q15 あなたは、文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や文化財・伝統的まちなみの保存・整備など、お住まいの地域での文化的な環境に満足していますか？（択一式）

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない
5. 関心がない

Q15－1　Q15 で「3. どちらかといえば満足していない」「4. 満足していない」と回答した方

先ほどの質問で「お住まいの地域での文化的な環境にどちらかといえば満足していない／満足していない」と回答した理由は何ですか？このなかからあてはまるものをすべて選んでください。

1. 近くに文化施設がない
2. 文化施設が老朽化している
3. 施設利用料が高い
4. 参加できる活動がない
5. 魅力的な活動・イベントがない
6. 良く知られた歴史的な建物や遺跡がない
7. その他 （具体的に：・・）

Q15-2　Q15 のお住まいの地域での文化的な環境の満足度について詳しくお尋ねします。

以下の項目ごとの満足度を回答してください。

Q15-2-1　文化芸術鑑賞の機会

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない
5. 関心がない

Q15-2-2 文化芸術活動の実践

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない
5. 関心がない

Q15-2-3 文化財や伝統的まちなみの保存・整備

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば満足していない
4. 満足していない
5. 関心がない

Q16 あなたは、お住まいの地域の文化的な環境を充実させるために、何が必要だと思いますか？この中から 3 つまで選んでください。

1. ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実
2. 文化芸術の創作や準備、活動ができる施設や情報の充実
3. 公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実
4. 芸術家や文化団体の活動の支援
5. 著名な芸術家の招へい
6. 地域の芸能や祭りなどの継承・保存
7. 郷土料理などの地域の食文化の継承・保存、体験機会の充実
8. 歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進
9. 文化施設や文化事業において地域在住の芸術家による作品を積極的に活用
10. ワークショップなどを通じて地域在住の芸術家と直接接する機会の充実
11. 子どもが文化芸術に親しむ機会の充実
12. 工芸、ファッション、メディアなど文化芸術に関連する産業の振興

13. 日本文化の国際的な知名度やイメージの向上
13. 文化施設の活性化や文化芸術活動の支援を担う専門的人材の育成
14. その他 （具体的に：・・）
15. 特にない・分からない